

有田川“ぶどう山椒” Connectプロジェクト

～ 清水の恵みでうみだす ひと・まち・しごと ～

1. 事業主体 紀州有田ぶどう山椒会議(仮称)、有田川町
2. 全体事業費 55,000千円(うち元気プロ5,000千円)

3. 目的

有田川町の特徴ある産品である“ぶどう山椒”の可能性を発掘するため、多方面の企業・団体との連携を深化。一方で、新たな商品開発やプロモーションを展開し、ぶどう山椒に次ぐ産品も発掘し、生業として成立する農業への進化を促す。

また、農家の担い手不足へのアプローチとして、各施策で地域と都市部をつなげることで、交流人口の増加を図るとともに、持続可能な山村地域の構築を目指す。

4. 3つの柱による取組み

(1)有田川の特産物の魅力をもっと発掘【11,275千円】(うち元気プロ1,351千円)

- ①ぶどう山椒に次ぐ農林産物を発掘及び育成への支援
農業収入の安定化を目指し、歴史や風土等の地域特性を活かした特産物の発掘、育成
肉桂の葉の活用(和風シナモン)、アカシソなど
- ②「食」分野のさらなる展開および「食」を越えた分野(美容・リハビリ・農業)での利活用の研究
・産官学の連携で促進(食品・医薬品事業者、工業技術センター、生命科学系大学)
・県外山椒関連企業の協力で調理加工にも適した鮮度保持・信頼性のある加工品の開発及び製造
・上記の取組により、新たな雇用を創出
・産官学の研究を踏まえて地元農家への研修



(2)ぶどう山椒で”しごと・ひと創生”【13,613千円】(うち元気プロ1,697千円)

- ①地元高校(有田中央高校)とのコラボ事業
・県外の山椒関連企業の協力を受けながら有田中央高校と地元住民グループや飲食及び食品加工事業者と連携し商品開発を実施
- ②次世代継承トライアル事業
・Uターン者の新規就農者から自立型コア人材を育成
連携事業者(株自遊人等)や地元農家の協力で生産方法を系統立てて学ぶ場を提供
・安定供給に向けた支援体制の確立(新植・改植支援など)
山椒関連企業の協力で耕作放棄地の再生や既存園地の改善
- ③地元もっと！提供機会促進事業
・町内店舗(道の駅・カフェ・飲食店など)での新製品メニューの提供機会創出とマップの作成



(3)ぶどう山椒が”つなぐ”都市、プロ、海外”【30,112千円】(うち元気プロ1,952千円)

- ①イメージアップ事業
・ぶどう山椒を用いた料理や製品を提供する店舗を紹介する情報をホームページ、SNSで発信
・有田川のぶどう山椒をイメージするロゴマークやパッケージを工業技術センターの協力で作成、活用
- ②Connect(ぶどう山椒でつながる)推進事業
関連事業者(外食、情報雑誌)の協力のもと、一般向けだけでなく飲食関連事業者に訴求推進
・「ぶどう山椒のまち」をイメージする大規模イベントの開催
・有名料理人監修の料理を提供する限定ツアーを実施
有名調理師学校等、次世代を担う料理界の人材を生産現場に招き、現地体験会・交流会を実施
他の名物となる新産物も併せて、新メニューを開発し町内でも提供
- ③販売カステップアップ事業
県外食品販売事業者と情報雑誌社の協力のもと販売促進
・国内外の展示会や販売会への出展支援(出展料等の経費補助)
・首都圏を中心とした高級百貨店や外食事業者へ販売促進



5. 目標

	平成29年度	平成32年度
新商品開発数及びふるさと納税返礼品への登録数	0 商品	5 商品
事業実施に伴う増加売上額	0 千円	50,000 千円
交流人口数[清水エリア]	120,000 人	145,000 人